

## あとがき

この戦争体験手記を発行するに当たってまず驚いたのは、予想をはるかに超える百七件、百十九名もの方から、貴重な体験をお寄せいただいたことです。

当初は、年配の方にとっては原稿を書くのは大変なので、聞き書きを含めてもさほどの件数にはならないだろうと考えていました。

ところが、案に相違して、次から次へと寄稿や聞き書きの申し込みがあったのです。「平和ボケ」などと言われる世相に対する戦争体験者の危機意識の高まり、そして戦争体験を次代へ継承していこうという強い意志を確かに感じました。

これらの原稿を書いてくださった方、目の前で話をしてくださった方が、大変な環境の中で生と死の境を紙一重で乗り越えてきた人だと思つと、歴史の大きな流れには抗いきれない個人の運命、またほんのちょっとした偶然に左右される人間の存在のはかなさを感じずにはいられませんでした。

今回、聞き取りをお願いした西田小夜子さんが、自らの体験記の中で「私は爆弾や鉄砲ももちろん怖いですが、もっと怖いのは戦争によって歪められてしまう人間の心でした。それが何よりの罪だと思えてなりません」と述べています。

しかし、こういった歴史を作る主体が、ほかならぬ私たち人間自身なのです。現在の日本が戦争とは対極にある平和の絶頂にあり、これから歴史の流れが再び戦争へと向かっていくのだとしたら、それをただ手をこまねいて見ているだけでは、かつての悲惨な歴史の二の舞です。今回寄せられた戦争体験の背後には、そうはさせないという強い決意がはつきりとうかがえます。この手記が、そういった戦争体験者の意思を十分に反映したものと成り得ていれば、編集に携わったものとしてこれ以上の喜びはありません。

なお、編集の都合上、掲載の順序は原稿の到着順とさせていただきます、原稿が長いものについては削らせていただいた場合もあります。ご了承ください。

最後になりましたが、体験をお寄せいただいた方々、体験の募集を広く周知して下さった方々、そして聞き書きの労を執ってくださいました西田小夜子さんに感謝申し上げます。本当に有り難うございました。

体験をお寄せいただいた方々が、苦勞した昔の分まで、いつまでもお元気で幸せでいることをお祈り申し上げます。

戦後五十周年記念出版

語り継ぐ戦争体験

発行日 平成7年8月10日

発行者 羽村市

〒205

東京都羽村市緑ヶ丘5-2-1

0425-55-1111

編集・制作 企画総務部企画調整課

\*日本音楽著作権協会（出）許諾第9570966-501号

\*表紙写真©東田裕二（提供世界文化フォト）